Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-06

# SLE合併妊娠の臨床像

天野, 真理子 ; 牧原, 夏子 ; 園山, 綾子 ; 鈴木, 嘉穂 ; 森本, 規之 ; 森実, 真由美 ; 出口, 雅士 ; 森田, 宏紀 ; 山崎, 峰夫 ; 山田, 秀人

(Citation)
日本周産期・新生児医学会雑誌,46(2):472-472

(Issue Date)
2010

(Resource Type)
journal article

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90001400

## PO-227 SLE合併妊娠の臨床像

**Pregnancy outcome in patients with systemic lupus erythematosus**

神戸大学大学院医学系研究科外科系講座産科婦人科学分野

**天野真理子，牧原夏子，園山綾子，鈴木嘉穂，森本規之，森実真由美，出口雅士，森田宏紀，山崎峰夫，山田秀人**

**【目的】**SLE患者の約1/4が抗リン脂質抗体症候群（APS）合併であり，流死産や早産，子宮内胎児発育遅延（IUGR）などをきたすハイリスク妊娠である．SLE合併妊娠の臨床像を検討した．

**【方法】**過去5年間に分娩管理を行ったSLE合併妊娠15人32妊娠を対象とし，抗リン脂質抗体（aPL）の有無に分けて妊娠転帰，産科異常の有無を後方視的に検討した．

**【結果】**SLE合併妊娠15人中6人（40%）がaPL陽性であった．aPL陰性のSLE 9人17妊娠のうち，自然流産6例（35.3%），人工妊娠中絶1例（5.9%），生児獲得10例（58.8%）であった．一方，aPL陽性のSLE 6人15妊娠では，自然流産5例（33.3%），死産1例（6.7%），人工妊娠中絶1例（6.7%），生児獲得8例（53.3%）であった．生児獲得例で，aPL陰性10妊娠とaPL陽性8妊娠の分娩週数（mean±SD）は38.1±1.1週と32.5±5.5週，出生児体重は2,831±353gと1,733±1,005gで，IUGRは1例（10%）と4例（50%）であった．妊娠高血圧症候群（PIH）はaPL陽性妊娠の1例（12.5%）のみに認められた．aPL陰性10分娩で血小板減少は認められなかったが，aPL陽性8分娩のうち3例（37.5%）で血小板減少を認めた．aPL種類別の検討では，aPL陽性SLE 6人のうちループスアンチコアグラント（LAC）のみ陽性は3人（50%），抗カルジオリピン抗体（aCL）のみ陽性は1人（16.7%），LACとaCL両方陽性は2人（33.3%）であった．LACのみ陽性3人4分娩での分娩週数は，34±5.5週であった．aCLのみ陽性例は無治療で，IUGR，胎児機能不全のため26週で分娩に至った．LACおよびaCL両方陽性2人3分娩で，1人は無治療でIUGR，胎児機能不全のため妊娠26週で分娩となった．残り1人はプレドニゾロンと低用量アスピリン療法を施行し，2分娩とも妊娠36週で分娩となり児の発育は良好であった．

**【結論】**aPL陽性のSLE合併妊娠では，流産，IUGR，PIH，早産を発症率が高く，特に無治療例では予後不良であった．SLEではaPL検索を行い，陽性であった場合にはより厳重な妊娠管理が必要である．